

令和4年度地域包括ケアに携わる多職種合同研修会

～「顔の見える関係」から「多職種協働」、そして「チーム北空知」へ～

第1回 ケア・カフェきたそらち 開催結果・評価

項目	内 容
1 目 的	北空知における地域包括ケアシステムの構築を目指して、地域の保健・医療・介護・福祉の関係機関・施設・事業所等において、患者や利用者、地域住民の支援に携わる多職種の関係職員が一堂に会することが困難な状況にあっても、互いの役割を確認・共有し、切れ目のない支援・サービスが提供される多職種連携の関係作りを構築する。
2 期待する効果・成果	○地域支援関係者、医療関係者等の多職種が情報交換・共有する関係性と環境が構築される ○多職種の交流の場を運営する組織ができる
3 日 時	令和4年8月23日（火）18：00～19：58
4 場 所	オンライン開催（ZOOM）
5 内 容	（1）話題提供 「ストレスとアンガーマネジメント」 話題提供者 東が丘病院 精神科認定看護師 疋田 健氏 （2）グループワーク テーマ 「ストレスとアンガーマネジメント」 カフェマスター 北空知介護支援専門員連絡協議会 桑原 薫氏
6 出席者	医師1名、歯科医師1名、歯科衛生士1名、薬剤師1名、看護職10名、保健師8名、介護支援専門員7名、介護福祉士3名、ヘルパー2名、社会福祉士4名、ソーシャルワーカー2名、リハビリ職4名、教員・学生8名、管理者5名、事務職3名 <u>合計 60名</u>
7 結 果	（1）話題提供内容 ○自己紹介後、資料に基づき、「ストレスとアンガーマネジメント」をテーマに情報提供をいただいた ○アンガーマネジメントとはいいつつも怒りの感情は必要であること、「こうあるべき」という思い込みが怒りに変わることなどが紹介された （2）グループワーク ○各 Chat1 は9グループ、Chat2 は10グループ編成し、1グループ4～8人のランダム編成とした （ホストとカフェマスターの2名を除いてグループ編成） ○カフェ・マスターから進行方法と、自己紹介（氏名・所属・職種・コロナ禍でのストレス解消法）について説明があった後に Chat 1 が開始され、休憩（5分）を挟んで Chat 2、全体会へと進行された ○各 Chat の開催時間（Chat 1：30分、Chat 2：30分）が設定され、時間になったら全体へ戻ることから、集合研修時に見られる「会場の音で聞こえない」「話し足りず、なかなか終わらない」という状況はなく、集中してそれぞれの Chat 内で時間通りに進行がされた ○参加者はオンラインでの会話や、端末の操作に慣れてきている様子。仕事や私生活上のストレスと感情コントロールについて意見交換することができた。 内容は「ハラスメントに気がついている」「飲み会が無く同僚や上司のキャラクターを把握する場面がない」「嫌なことは次の日に持ち越さない」「人と接する機会が減って笑うことが減った」「コロナで施設ではなく在宅の看取りが増え逆に本人の意思が尊重され良いケースもあった」などの事例が紹介された ○カフェ・マスターの説明と全体のまとめがわかりやすく進行もスムーズだった

プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・顔の見える関係を今後引継いでいく上でさらに若年層の参加勧奨をすすめる必要がある ・看護師の参加については話題提供者が施設内外でPRしていただいたことから前回と比較し増えた
結果	<p>○参加者数 →「△」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定員100名としたが、参加は昨年より増え60名となった ・勤務市町別では、深川市37名(61.7%)、妹背牛町5名(8.33%)、秩父別町4名(6.7%)、北竜町6名(10.0%)、沼田町6名(10.0%)、その他2名(3.3%)と、深川市が約半数を占めていた* ・委員等別では、協議会委員等が17名(28.3%)、小部会委員11名(18.3%)、委員等以外32名(53.3%)と、委員等の関係者が半数以下だった* ・参加者のほとんど(77.1%)が、職場から参加した ・同じ職場から複数名の参加があった ・今回初めて参加したのは8名で22.9%(前回17.1%)だった <p>○職種 →「○」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な職種の参加があった <p>○参加者の満足度 →「○」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートから、楽しさ、有意義さ、役立ち共に満足度が高く、「話すことでストレスが発散できた」「多職種で話し合う事で気づくことができた」という肯定的な記載があった ・対面でないため最初は戸惑うが、最後は楽しく終わったという記載があり、今後も参加したいかについては、「参加したい」が88.6%だった ・オンライン研修は、「便利でよい」が65.1%だが、「操作が難しい」、「馴染めない」が合わせて11.7%あったが、前回、前々回と比較すると徐々に減少しており、(前回14.2%、前々回16.6%)、オンライン研修が浸透してきていると思われる <p>○交流の場を手伝ってくれる人の確保ができたか →「×」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カフェマスターから当日改めて運営協力へのアナウンスがあったが、今回も質問への回答はなかった ・引き続き運営協力員の世代交代を視野に入れつつ取り組んでいく事が必要
まとめ	<p>○多職種連携をする上で、顔の見える関係性の構築とその継続が重要であり、ケア・カフェはそれらを実現するとてもよいツールと考える。少しでも多くの人に参加し「顔の見える関係」になって北空知での連携がよりスムーズに行われるよう、継続した取り組みが必要</p> <p>○オンラインでは、他グループの様子や雰囲気からわからないため、チャット終了後にグループ毎に発表することや、全体で話題を共有できるように発言を促すこと等、開催方法や時間配分の検討が必要</p> <p>○オンライン研修は、かなり浸透してきているが、端末や通信環境から参加しづらい場合も考えられ参加者への配慮が求められる</p> <p>○「集まって話がしたかった」という意見は毎回あり、オンライン開催の強み(地理、時間、季節)を生かしつつ、集合形式も一部取り入れたハイブリッド開催など、状況に応じた開催方法を検討し、若年層や委員等以外の参加者が増えるような取り組みが必要</p> <p>注：文末が「*」となっている文中の数値は申込名簿から使用。それ以外はアンケートからの数値を使用</p>